

<豪ドル/円特別レポート>

皆さん、こんにちは、山根亜希子です。

今回は、私なりの中長期の観点から豪ドルの動きについて考えてみたいと思います。

豪ドル/円は08年の秋のリーマン・ショック後、54円という歴史的な安値をつけました。

08年秋～冬にかけて豪ドルは急激な勢いで下げたためオーストラリア政府は2度にわたって介入をしました。

この介入は米ドルに対して豪ドルを買い支えるという介入でした。

その後は急激な勢いで今年に入ってから上昇を開始したのですがあまりの短期間に大きく上昇したために買いそびれてしまった投資家も多いと思います。

2000年につけた55円とほぼ同じレートをつけ、09年2月初めから上昇に転じ、09年は年末まで上昇相場となりました。

この豪ドル/円の動きは何に連動したかという原油の値段に連動したのです。

オーストラリアは先進国の中ではカナダと並ぶ資源国です。

資源国通貨は資源の値上がりが起こると上昇し、資源が下落すると下がる動きをすることが知られています。

○ 原油チャート



○ 豪ドル/円チャート



(チャート：futuresource.com)

08年以降の2つのチャートの見比べてみてください。
きれいに連動していることがわかります。

ということは、今後も資源の値動きに豪ドルの値動きは左右される可能性が高いということ
ことです。

オーストラリアは産油国として有名でないのに不思議に思うかもしれません。

日本は鉄鉱石を大量に輸入しているので金属である金価格に連動すると言われたほうが
納得できるのですが実際には原油価格に連動しているのです。

相場では合理的な理由よりも実際の値動きから判断しないと大きな失敗をします。

理由はわからなくても影響を受けるものが何かを知っておくことの方が重要なのです。

<オーストラリアの利上げ>

09年秋からオーストラリアは継続して3度ほど利上げをしました。

しかし、12月に入ってからしばらく利上げは休止するという発表をして相場関係者をが
っかりさせました。

しかし、お隣のニュージーランドも10年の半ばくらいから利上げをするだろうという
期待が高まっています。

オセアニアの国は先進国の中では真っ先に利上げに踏み切りました。

実際の経済状態も先進国の中では軽微だったからです。

特にオーストラリアは景気後退（リセッション）を先進国の中で唯一免れた国です。

ファンダメンタルの強さを考えると豪ドル/円は長期的には有望な通貨なのです。

ただし、動く時は一方向へ大きく動く特徴があるのでリスク管理が重要です。

<長期投資と10年の動きは？>



(チャート : futuresource.com)

このチャートは91年から09年のチャートです。
何かに気づきませんか？

長期的に見て豪ドル/円は60円以下が底値圏で100円超が天井圏なのです。

豪ドル建ての資産運用を長期で考えている人は60円台や70円台で買えば失敗する可能性が低く、もし50円台で買うことができれば超ラッキーだということです。

10年から12年くらいまであと3年程度は景気は非常に厳しい状況が続くと言う見通しが多いですが長期で見た豪ドル/円のチャンスもしっかり狙っていきたいものです。

10年には株価の2番底が来るという話もあります。

その時、もしかしたら豪ドル／円は再び60円台や70円台まで下落するかもしれません。

他の投資家が悲観的になって投資に対して慎重になっている場合でも計画的に豪ドル／円を購入する場合はそれほど怖がらなくても大丈夫です。

今年の夏にはレバレッジ規制が実施されてFXの最高レバレッジは50倍になります。
11年には25倍までレバレッジは下がります。

投資のルールは時代とともに変化していきますがいつの時代でも安く良い資産を購入することが資産家になる近道です。

これから来る大暴落は大きな投資のチャンスです。

豪ドル／円を長期保有し、スワップを年利3%以上もらいながら数年後の値上がり益もいただければ大きく資産が増えます。

ただし、長期投資で大きく資産が増えると税金もしっかりとられるので税金対策のためにも長期投資は「くりつく365」か「大証FX」の口座を使ったほうがいいかもしれませんね。

今年は景気低迷による資源価格の下落と円高の影響で豪ドル／円も再度大きく下げる局面があるかもしれません。

以上、ご参考にして下さい。

山根亜希子